



大人ができること

剣や銃などを描いたりつくったりしてはいけません



と思いますか？子供たちを見ていると、剣や銃は見た目のカッコよさや、漫画の登場人物の強さから、あこがれのシンボルになっているのかなど、思う時があります。テレビや漫画の世界と、学校生活に境がないことも、子供のころはよくあることだと思います。想像力の表れでもあるので、剣や銃を表現すること自体は悪くないと思います。

ダメなのは、剣や銃で人が傷ついている様子を面白半分表現したり、だれかがいやな気持ちになるのを分かった上で、わざと表現したり、人の体を傷つけたりすることです。このような場合は、ダメなこととして教えずにはいけません。また、授業ではめあてがあるので、めあてと合っていない時は、考え直してもらっています。一番気を付けることは、子供は気持ちを言葉で表現できない時もあるので、心が疲れていると、絵や工作に心の痛みを表現する時もあります。その時は、後で話を聞いてあげるなど、子供に寄り添う方がいい時もあります。それらを見極めて、よりよく生きていけるようにするのが、私たち大人の役目だと思います。



四年生 段ボールを使って「おもしろアイデアボックス」に取り組みました。あつたらいいなと思うものを、段ボールで作り直しました。初めて習った段ボールカッターを上手に使ってペン立てや貯金箱やごみ箱を作りました。



持ち帰ったら実際に使ってみてほしいと思います。

府中市立
府中第七小学校
図画工作科
令和2年
7月7日発行
伊藤 志帆

個人情報保護のため、児童の指名や、顔は隠しています。ご了承ください。

授業がたのしい！

一年生 とても集中力があり、感心しました。こちそうパーティーをはじめようでは、ねんどに触れるとということだけで歓声が上がリ、つくりだすと今度は夢中になっていました。自分の食べたいごちそうを、楽しくつくりました。



ラーメンなども、器から工夫してつく子もいました。

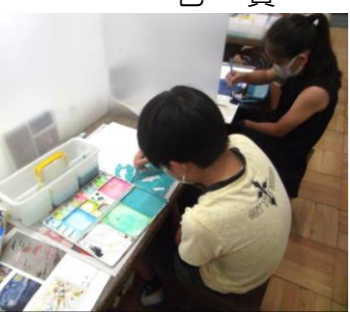


六年生

ムンクの「叫び」を鑑賞しました。子供たちから最初に出た素直な感想は、「怖い」「気持ち悪い」「変」などでした。しかし、学級のみならず意見交換するうちに、「怖さ」「気持ち悪さ」「変」の理由が、色使いや、ぐにやぐにやした線などの表し方がそう感じさせているということに気付いたり、友達が作品から様々なストーリーを想像していることを聞いたりすることで、「絵にはいろいろな見方がある。」と学んだ子が多くいました。



その後、自分の選んだ絵に、自分の考えを混ぜて絵を描きました。鑑賞の経験を活かし色使いや筆遣いを工夫しています。



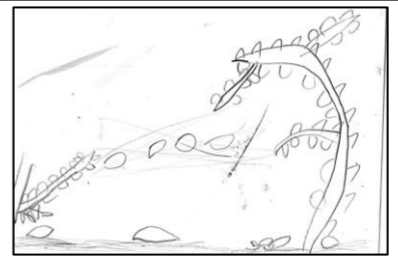
三年生 宿題の「しぜんの色」では色の研究をしたので、「絵の具十ふで」がいい感じ

では、筆の使い方を研究しました。筆の先や腹を使い分けたり、直線や曲線を描いたり、水の量を調節するなど、たくさん研究できました。



13年2組

この成果を生かして、「6月のわたしの絵」に取り組みました。校庭で自分の6月のテーマを探し、それぞれ絵に表現しました。くもの巣に



13年1組



新聞紙を集めています

新聞紙が不足しているため、ご自宅不要になった新聞紙がありましたら、伊藤まで届けていただくと助かります。ご協力よろしくお願いたします。

